六月五雲能

六月十九日（土）
午後一時始

演目の解説

13:00

加茂

シテ 金井賢郎　ツレ 藤井秋雅　天女 木谷哲也

ワキ 則久英志
ワキツレ 野口能弘
〃 野口琢弘
間 野村拳之介

大鼓 原岡一之
小鼓 船戸昭弘
太鼓 林雄一郎
笛 小野寺竜一

後見 朝倉俊樹　大友順　朝倉大輔

地謡 辰巳和磨　田崎甫　佐野弘宜　小林晋也　金井雄資　金森秀祥　澤田宏司

能「加茂」（かも）

播州一宮の由緒を持つ「室の明神」の神職は、同一社「木綿を掛けて迎ら」の中に「下加茂」と「白神」の二人の祭神を汲む女性家系に生まれた女性は、水の流れる清い水を尋ねて、遠く白羽の矢を立てて来ます。そこに、白羽の矢の起源を謂れ加茂の水の源を求めて、折り返し、行き着いた所は、一面の葦の生い茂る沼地。その中に、一本の大きな楠の木が、天に向かって、枝を広げ、葉を茂らせていました。その楠の木の下に、一人の女性が、懐妊し、帰郷する為に、桶に、水を汲んでいました。その女性の、懐に、流れ来た、矢を、置くと、三歳になった、男の子が、生まれました。この子は、神に、祭られて、半年、経ち、三歳になった、ある日、この、子の、母親は、神に、お供えを、しようと、思い、桶に、水を、汲んで、来ると、桶の、水に、映る、自分の、姿を、見て、驚き、この、子は、神の、御子に、違いない、と、思い、神に、お供えを、止めて、この、子を、抱き、家に、帰り、この、子を、育てる、ことに、した。この、子は、成長し、十五歳に、なった、ある、日、この、子の、母親が、豊穣を、願って、舞を、舞い、寿ぎます。

14:30

因幡堂

河野佑紀　能村晶人

〈休憩十五分〉

15:05

雲雀山

子方 藪俊太朗
シテ 小倉伸二郎

ワキ 福王和幸
ワキツレ 矢野昌平
ワキツレ 村瀬提
ワキツレ 村瀬慧
間 野村万蔵
〃 野村万之丞
〃 野村拳之介
〃 石井康太
〃 河野佑紀

大鼓 柿原光博
小鼓 森貴史
笛 栗林祐輔

後見 武田孝史　山内崇生　金森良充

地謡 鶴田航己　今井基　金野泰　和久荘太郎　東川光夫　佐野登　東川尚史

能「雲雀山」（ひばりやま）

右大臣豊成は、我が子中将姫を殺せと命じて、山に捨てます。話は、侍従に連れて行き、情け深い乳母の侍従が、姫を売り飛ばします。豊成は、一人、寂しく、暮らす、ことに、なります。知らない、里へ、出かけて、行き、草庵を、結び、住まわせます。豊成は、信じられない、ことを、聞き、信じて、行き、合わせ、ます。親子、共々、涙を、流して、、、